

金沢市(北陸圏・中部圏ブロック)

(2期 計画期間 24年4月～29年3月)

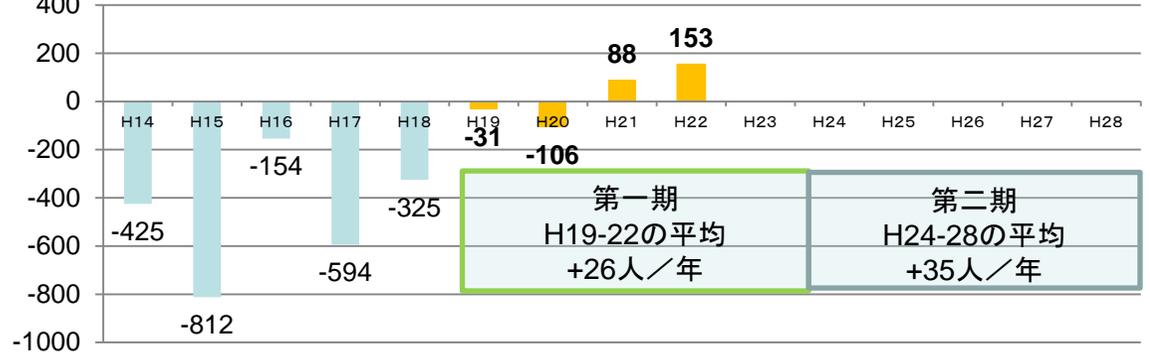
戦国時代:加賀一向一揆の拠点金沢御坊の門前町として始まる
 江戸時代:加賀百万石の城下町として繁栄。
 現在:戦災や大きな自然災害を受けることがなく、金沢城を中心とした藩政期のまちの骨格を今に引き継ぎ、都市機能がコンパクトに集積しながら、日本海側の中核都市として発展

【中心市街地を巡る状況】

- 固有の歴史・伝統・文化が息づく、美しい街並みや景観の保存に注力する一方、「都心軸」における再開発事業を促進するなどメリハリが効いた保存と開発を図り、「人が住まい、集い、にぎわう」まちづくりを目指した一期計画の実施。(H19-23)
- 定住、交流人口の面では増加・改善が見られる等の大きな成果が上がっている。
 こうした成果を踏まえつつ、世代、地域、まちづくりの多様な主体等を「つなぐ」機能を強化する必要がある。
- 定住、交流人口に関して引き続き取組を行うとともに、来街者の拠点となる金沢駅及び各拠点間の回遊性を向上させるための取組を実施。

目標	指標	基準値	目標値
にぎわいと交流が生まれる中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量	113,089人 (H23速報値)	115,000人 (H28)
	中心市街地の観光施設の利用者数	5,869千人 (H22)	6,193千人 (H28)
過度に自動車に依存しない中心市街地	公共レンタサイクル「まちなか」の利用回数	-	100千回/年 (H24～28FYの平均)
誰もが暮らしやすい中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態	+26人/年 (H19～H22の平均)	+35人/年 (H24～H28の平均)

○中心市街地の人口の年間社会動態

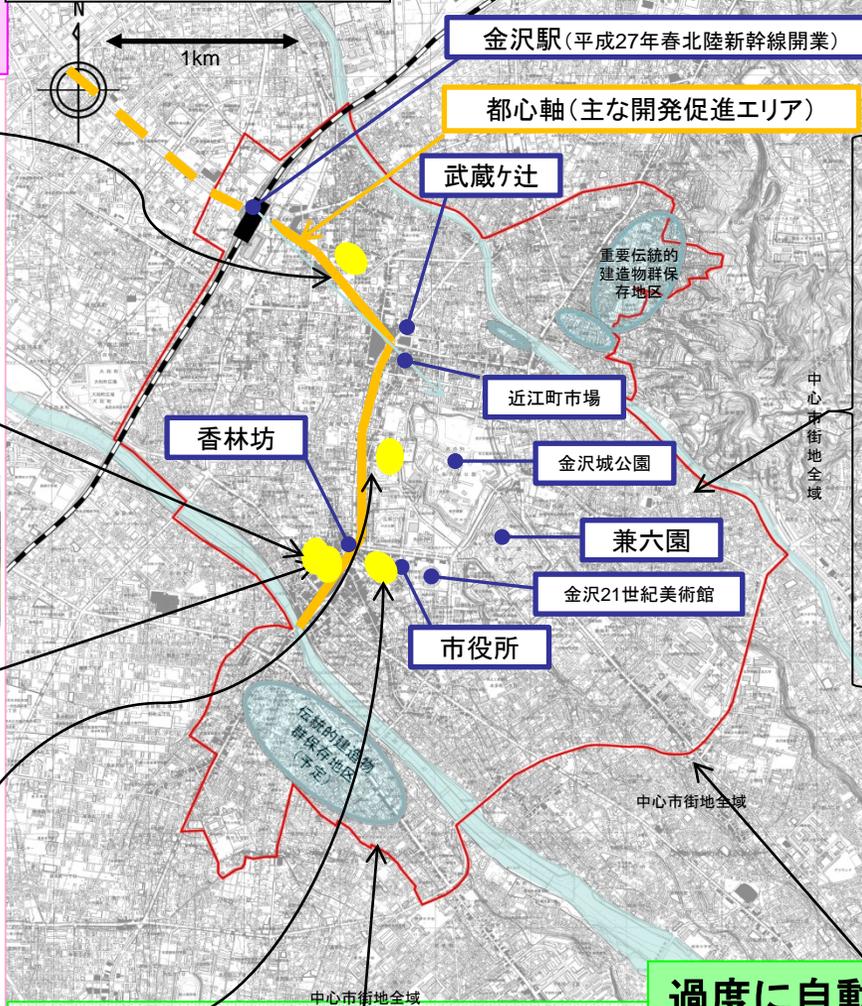


- にぎわいと交流が生まれる中心市街地
 →①金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業第三工区、②尾山町地区暮らし・にぎわい再生事業 等
- 過度に自動車に依存しない中心市街地
 →③自転車利用推進事業、④バス走行環境の改善 等
- 誰もが暮らしやすい中心市街地
 →⑤まちなか定住促進事業、⑥コミュニティ空間保存活用事業 等

金沢市中心市街地活性化基本計画の事業概要

にぎわいと交流が生まれる 中心市街地

中心市街地領域：約860ha



誰もが暮らしやすい 中心市街地

①金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業第三工区

都心軸を形成する重要な地区である武蔵北地区において**住宅・商業施設、公共施設等**を一体的に整備



○金沢まちなか学生交流街拠点整備事業

学生がまちなかに集い、学生活動を進めるほか、**市民や商店街との交流**、様々な活動を展開するため、**拠点施設**を整備。



○片町地区複合施設再生整備事業

古くからの繁華街である片町地区において、既存ビルを再整備し、**商業施設等の複合施設**を整備

②尾山町地区暮らし・にぎわい再生事業

賑わい交流促進やまちなか情報発信の拠点として、**地域交流施設、観光情報施設、展示施設を併設した公益施設**を整備

○「生活工芸ショップ(仮称)」運営事業

広坂通りの空店舗を活用し、生活工芸品に関する**新たなビジネス拠点**として、「生活工芸ショップ(仮称)」を運営

③自転車利用推進事業

これまで取り組んできた自転車利用推進の取組に加え、市民の日常の足としての都市内交通の充実、来街者のまちなか回遊性向上のための二次交通の充実を目的に、**公共レンタサイクル「まちのり」**を実施。



サイクルポートは18ヶ所!

過度に自動車に依存しない中心市街地

④バス走行環境の改善

バスの定時性の確保、速達性の向上を図るため、**バス専用レーンの拡充**および**交差点の改善**等を実施。

⑤まちなか定住促進事業

中心市街地における**戸建住宅・分譲マンションの新築・購入費、空き家の利活用等**を補助

⑥コミュニティ空間保存活用事業

広見・寺社等の境内、袋小路・用水・わき水といった**コミュニティ空間の保存と活用**により、地域コミュニティの活性化を推進



横山町広見まつり

○協働のまちづくりチャレンジ事業

公募により採用した事業を市民団体と行政が共働で取り組むことにより、**市民や市民団体の創意と工夫にあふれるアイデア**を誰もが暮らしやすい、にぎわいと交流が生まれるまちづくりに活かす。